生 活 創 造 学 科
学科課程と履修の手引き

生活創造学科で学ぶ皆さんへ

生活創造学科長

生活創造学科の目標は，人間の生活を科学的，総合的，複合的にとらえ，生活に存在する問題を発見する能力，それを適切に表現する能力，そして新しい生活方法を発想し，実践する能力を開発し，主体的に生きることができる人間を育成することにある。

そもそも生活とは，一人ひとりの人間がいま，ここに，かけがえのない命を持って生きているという現実を意味しており，抽象的な一般概念の操作だけでは捉えられないものである。故に，生活に関わる具体的な問題に取り組むことから出発する必要がある。更に，それらの問題に対する対処が他人任せであったり，その場限りのものにならないためには，生活の質の向上とはどういうことか，そのために一番大切なことは何なのかを常に問い続ける姿勢とそれを実現させようとする意欲と実行力が要求される。

生活における具体的な問題は，その性質上，単一の専門領域の視点だけでは十分に捉えられないことが理解されるであろう。特に，現代の生活が多様な側面を持っていることに対応して，本学科で学ぶ内容も，人文科学，社会科学，自然科学の多岐にわたる領域に及ぶ。一つの専門領域の視点に凝り固まることなく，さまざまな視点から生活について考えることを通して生活の知的創造を生み，激動する現代社会において主体的に生活すること，そして社会に貢献できる人材への成長が可能となる。このような本学科の教育目標に相応しい名前として，2002年に学科名を生活創造学科へと変更した。

学習するにあたっては，１年次前期に，現代の生活に関わる基礎的な事柄や，生活文化，家族，生活心理，情報，福祉，消費生活，衣，食，住，芸術などについて，それらの現状と課題を学び，１年次後期以降その課題をいかに解決していくかの道すじをさらに専門的に学んでいくことになる。テーマを決めて，自ら調査をしたり，議論をしたり，アイディアを出しあったりして研究し，論文や作品を作りあげる方法を学ぶ少人数制のゼミナールを１年次後期より開始するのも本学科の特徴である。テーマは履修モデルとしてあげられているさまざまな分野から選択することができるので，時代に即した職業人として巣立つ準備をしたり，学生それぞれの才能や個性に沿って，将来への足掛かりを見つけていくことも可能である。

以上のような本学科の内容をよく理解した上で意欲的に学んでほしい。

〔本学科は1954年開学の家政科を出発点として，1989年には生活の広がりに対応して生活教養学科，2002年度からは生活創造学科へと名称を変更し，60年以上に渡って，生活について教育と研究を積み重ねてきた学科である。〕